



梅雨が始まる前にべと病の防除を。

今回は梅雨時期に様々な野菜に発生する「べと病」について説明します。

べと病は「カビ」が原因の病気で、気温が低く(20℃前後)雨が続く梅雨時期や、肥料成分である窒素を与えすぎて茎葉が茂りすぎになり、株が蒸れた時に発生しやすくなります。



営農経済課 TAC
藤井 拓也

特徴はウリ科やアブラナ科には黄淡色の斑点、ネギ科には輪郭がはっきりしない黄白色の病斑ができ、放っておくと病気が広がり弱い株は枯死してしまいますので発生前の防除がとても重要です。



そこでべと病の発生前からできる防除ポイントとして

- 落花、落葉はこまめに取り除き株元をきれいにしておく。
- 過剰な追肥は避け、葉が過繁茂状態になっている時は枝葉を摘み取り日光と風通しを良くする
- 泥の跳ね返りでも感染する恐れがあるので、水やりの際、丁寧に根元から水を与え、マルチなどを敷いて雨の時の水の跳ね返りを防ぐ。

野菜の種類によっては症状が様々で病原菌も異なるので、判断が難しい場合は最寄の支店へご相談下さい。

おすすめ 中期除草剤



マムット®SM ジャンボ

取りこぼしたヒエにはこれ!

使用時期

移植後20日～ノビエ3.5葉期 但し、移植後30日まで

- 3つの有効成分で多くの雑草に高い防除効果を発揮します。
- 投げ込み処理により省力的な中期除草が可能!

価格 3,251円(税込)



セカンドショット G ジャンボ

新技術を試したい方にはこれ!

使用時期

移植後20日～ノビエ3.5葉期 但し、収穫45日前まで

- 新技術で、農薬成分が広がりやすい!
- 小さいパックで投げやすい!
- 3成分配合で取りこぼした雑草を幅広く防除!

価格 3,812円(税込)

※価格は当時のものとなります。